



Title	ウイルス感染における新規自然免疫核酸センサーシグナル機構の解明と感染制御への応用 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	橋爪, 芽衣
Citation	北海道大学. 博士(理学) 甲第14009号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/78070">http://hdl.handle.net/2115/78070</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Mei_HASHIZUME_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

# 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（理学） 氏名 橋爪 芽衣

審査担当者	主査	教授	坂口 和靖
	副査	教授	高木 睦
	副査	教授	藤田 恭之
	副査	教授	高岡 晃教
	副査	教授	村上 洋太

## 学位論文題名

ウイルス感染における新規自然免疫核酸センサーシグナル機構の解明と感染制御への応用

ウイルス感染症は、近年のインフルエンザのパンデミックを始め、新興ウイルス感染症の流行など、その社会的な影響力は甚大であり、ウイルス感染の制御は重要な課題である。しかしながら、現在まで根本的な抗ウイルス治療薬が報告されている感染症はほとんどない。このような背景の中、本学位論文に関する研究では、自然免疫応答に関与する分子を標的とした抗ウイルス生体防御機構の活性化によるウイルス感染の制御を目指し、ウイルス感染時の宿主における自然免疫活性化の新規機構を明らかとし、これまで治療法や予防法のなかったウイルスに対して、新たな治療戦略を提案した。さらに、細胞質内タンパク質の細胞外への表出という、これまでに見つからなかった分子の発現パターンを示した。

これを要するに、著者は、ウイルス感染を認識する機構についての新知見を得たものであり、ウイルス感染に対しての自然免疫機構、治療応用に貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士（理学）の学位を授与される資格あるものと認める。